



はていはてい

HATI-HATI

HATI-HATIはインドネシア語で相手を思いやる時に使うやさしいことばです。



柔道体験教室が、共生コミュニティセンター「つなぐ・つながる」にて開催されました。当日は30名の方にご参加いただきました。

体験教室では、投げ技や固技、体さばきなど、柔道の基本から実践的な動きまで、先生方が丁寧に指導くださいました。参加者の皆さまからは笑い声や驚きの声があがり、拍手が起こるなど、会場は終始和やかな雰囲気になっていました。

日本の国技である柔道を実際に体験する機会が少ない中、年齢や経験を問わず、誰もが安心して楽しめる貴重な時間となりました。参加者同士の交流も生まれ、心身ともに充実した体験教室となりました。



インドネシアでの体験 - お客様より同僚が大切 -

公益社団法人 트레이ディングケア 小笠原 広実

海外で過ごしてみると、日本では当たり前だと思っていたことが、実はそうではなかったと驚く体験をします。インドネシアで仕事をしていて初めにびっくりしたのは、お茶を運んできたスタッフが、お客さんではなくまず身内の私たちにお茶を差し出したことでした。日本人の多くは、小さい時から、相手の立場で考えなさいと何回も言われて育ってきています。当然、お客様をもてなすには、その人の気持ちを考えて、まずお客様にお茶を出すのが当たり前です。ところが、この「お客様から」を何回説明してもわかってくれないスタッフがいてとても不思議でした。

ある時、文化や国民性の特徴を数値化する”ホフステードの6次元モデル“の話聞く機会がありました。個人主義か集団主義（和を重んじる）か という視点があるのですが、日本は集団主義で企業など所属先の利益を重要視するけれど、世界の多くの国では、自分や自分の家族・身内を第一に考えることを知りました。インドネシアのスタッフにとって、お客様はその時だけの関係ですが、上司や同僚は身内であり、ずっと一緒に仕事をしていくので、より重要だったのです。そのためにまず身内にお茶を出していたのだとわかりました。

ほかの場面でも、看護師が患者さんに対応しているときに、昼食を調達する係のスタッフがメニューの希望を聞くと、看護師も患者さんを待たせてスタッフに対応する。すると日本人の患者さんは怒り出す...ということがよくありました。看護師たるもの、患者さんのことを第一に考えて仕事をするのが当たり前だと思っていた私にはかなりショックな出来事でした。でもインドネシア人のスタッフにとっては、患者さんよりも、話しかけてきたスタッフとの関係のほうが重要なのでした。

私たちは、自分の考えが正しい、一番良いと考えがちですが、異なった考えを持つ人がいるのだと知ることが、”自分と違う行動をとる人”と折り合いをつけ共生していく第一歩となるのではないかと思います。

やさしい日本語

日本語教師 林三郎

「寺子屋教育」と「α世代」1

江戸時代の寺子屋—いわゆる「読み書きそろばん」—が全国津々浦々に広がっていたおかげで、明治の初めの日本は、ロンドンやパリなど当時の世界の先進都市よりも識字率（文字が読める人の割合）が高く、その「教育力の防波堤」によって、列強の進出にも飲み込まれず耐えて、先進国の仲間入りをする事ができたといわれています。

さて、時代は移り、現代。今の子どもたちのうち、2010年から2024年くらいに生まれた子供たちは、世界的に「α世代」と呼ばれています。ひとつ前の世代が現在20代の人を中心の「z世代」、その前が「Y世代」そして「X世代」でした。アルファベットを用いた「世代ネーミング」が尽きたので、再びギリシャ文字の初めにもどったのです。さて、「α世代」の特徴としては、義務教育のスタート時から一人一台のタブレットが与えられました。自分の理解度に合わせて進める「自分専用の学習ペース」が可能になり、プログラミング教育も必修化されました。寺子屋教育の時代、そして明治時代以降続いてきた「知識の暗記」から「情報の活用」へと変化しました。そして今は、PBL（課題解決型学習）が中心になり、自ら問い、自ら調べ、議論し、解決策を提示する学習が増えています。また、クラスメイトに外国籍の子がいることも珍しくなく、多様な背景を持つ人々とどう協同するかという「非認知能力（数値化できない力）」も重要視されています。そして今や「SNSや生成AIとの付き合い方」が課題となってきました。「子供たちから、『AIに聞けばなんでも教えてくれるのだから勉強はしなくていいんじゃない?』と聞かれたら皆さんは何と答えられますか?」このことについてAIに聞いてみました。

(以下、次号につづく)

日本で安心して長く仕事ができるように、
いろいろな体験をしています



編集後記

つながる実習生

早くも、2か月間の入国後講習が終わりに近づいてきました。3名の実習生は、学習内容の多さに最初は驚いていましたが、3人で協力しながら必死についてきてくれました。学習だけでなく、さまざまなイベントにも積極的に参加し、楽しみながら経験を積んでいます。また、先輩実習生として、2月に入国予定の実習生に向けて、Zoomを通じて生活や学習についてのアドバイスも行ってくれました。次に入国する実習生も、インドネシアで介護と日本語の学習に励んでいます。新たなつながりが、広がっています。

ダバオ市の無料バス、未来の交通への一歩



フィリピンのダバオ市では、一部のルートで無料バスの運行が始まりました。この取り組みは、日々の交通費が高くなっている中で、市民を助けるための取り組みです。

青色の新しいバスは、低い床になっているため、高齢者や障害のある人、妊娠中の人でも乗り降りしやすいです。車内は広く、安全で安心して乗ることができます。

市は、この無料バスはずっと続くものではなく、試行運行だと説明しています。運行ルートや利用する人の数を調べて、将来の交通計画に役立てるためです。また、車の使用を減らし、渋滞を少なくする目的もあります。

一方で、問題もあります。運行には多くの費用がかかるため、長く続けることは難しいという声があります。また、ジプニー（乗合タクシー）などの運転手への影響を心配する人もいます。

今のところ、この無料バスは、市民にとってうれしいサービスであり、ダバオ市の新しい公共交通の形を見せてくれています。



メリーアン



2か月間の入国後研修での成長

12月に入国した実習生へ安心して、「ずっとこの施設で介護の仕事がしたい。」と感じてもらえるように、日本語・介護の講習・日本の生活など多面的な研修プログラムを実施いたしました。

介護教育に関しては、看護師3名、介護福祉士1名の講師陣による多角的な視点で、3年後の介護福祉士国家試験を見据えた学習も少しずつ取り組んでいます。身体部位の名称や介護現場でよく使う言葉など基礎基本を重点的に取り組んでいます。

実習生の生活面では、実習期間が年末年始と重なって日本の様々な行事を体験し楽しみながらできています。

市川

「入国後、インタビューコーナー」

- ①日本に来て驚いたことは?
 - 「寒いです。インドネシアは25℃くらいです。」
 - 「道がきれいです。インドネシアは、道にゴミが多いです。ゴミ箱に捨てる習慣がない人が多いです。」
- ②研修で楽しかったことは?
 - 「実際に日本人と話せたことです。」
 - 「キャッチボールができたことです。インドネシアでダイヤのエースを読んで野球をしてみたかったです。」



@TSUNAGU_TAKAHAMA



公益社団法人 트레이ディングケア
〒444-1303

愛知県高浜市小池町6-5-6

TEL 0566-57-7700

FAX 0566-57-7700

日・月・祝日はお休みです。